

復興の街をみて

あれから6年。平成28年12月22日、午前10時ごろに出火し約30時間延焼の末に鎮火、147棟4ヘクタールを焼失した糸魚川市駅北大火。驚愕の思いでテレビニュースを見つめていました。

後にこのコラムで「対岸の火事にあらず。大げさではなく、戦慄を覚える」と書いていますが、家屋密集の六日町市街地に、雪解けを誘う南風にあおられて、街の大半を焼失せしめた明治41年4月の大火をはじめ、近代以降、六日町も三度の大火を経験。まさに他人事ではないのです。

昨年12月10日、糸魚川市主催の「復興事業総合竣工式典」に参加しました。米田市長は万感の思いだったでしょう。この火災を当初「人災」と位置付けた国の見解を、地元選出の国会議員などの協力を得て、米田市長は「そうではない。異常な季節風による『自然災害』である」と強く主張し、時の首相に認定変更と「あらゆる制度や法制を駆使して復興させる」と言及させ、そのことが復興を加速し、

被災住民を鼓舞したと今や語り草にもなっています。そのプロセスに「政治と人の重要性」が何よりも大切だったと市長は声を詰まらせつつ語られました。

大火以来、ずっと防災服姿で中央省庁などさまざまなところを飛び回っておられた姿を、あの長島忠美氏（中越震災時の山古志村長）と重ねて見ています。自分だったらどうできるだろうか。「恐れ、備えよ！」と聞こえてくるようです。

米田市長から感謝された温かいエピソードをひとつ。大火の後、二日町の目黒正春さんから「糸魚川のみなさんに役立てていただけるなら」と、保管されていた大量のすばらしい焼き瓦を託されました。糸魚川市にお伝えすると「ぜひ、復興の街並みに」と。式典の日、会場にほど近い駅北の商店街を歩いてみました。見事に復興をみた雁木通りに美しい葺が連なっていました。たまたまなくうれしくなりました。

シリーズ
第118回

国際大学留学生

お国自慢コーナー～boast of my country～

カンボジア王国 カンニャ ティさん



私の国はこんなところ

カンボジアは東南アジアに位置し、アンコールワットで有名な国です。アンコールワットはクメール王朝時代に築かれたアンコール遺跡群を代表する寺院で、国旗にも描かれ、国の象徴となっています。東南アジアで最も重要な遺跡のひとつでもあり、世界遺産に登録されています。カンボジアにおこしの際は、シェムリアップ州を必ず訪れてください！遺跡巡りはもちろんのこと、カンボジアの豊かな文化や伝統、おいしい郷土料理を楽しむことができます。代表的な料理はフィッシュアモックです。白身魚（淡水魚）にココナツカレーをかけた料理です。お試しください。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼の雪の季節は、年中温暖の国から来た私の人生で、一番のいい思い出です。経験したことの無い寒さに順応するのは少し大変でしたが、雪の中、周辺を散策して雪の美しさを思う存分楽しみました。雪の景色は白くてとてもきれいですね。心が穏やかになる、特別な季節でした。もう1つ印象的な思い出は、越後浦佐毘沙門堂裸押合大祭を見に行ったことです。

編集後記

2月4日は立春、暦の上では春がやってくるといわれていますが、南魚沼では春を前に1年で最も寒い時期だと感じます。寒さは苦手ですが、早朝、放射冷却でカチカチになった雪の上を歩く「しみわたり」はこの時期ならでは、大人になっても何だかワクワクした気持ちになります。(Y. T)

今月の表紙

雪が降り積もると、市内の各園では寒さに負けず雪遊びをする子どもたちの元気な声が聞こえてきます。青空が広がる絶好の雪遊び日和となったこの日、大崎保育園の子どもたちは雪の上を転がったり滑ったりと、思いきり体を使って雪を楽しんでいました。

市民の動き 令和4年12月末日現在 ()は対前月比

●人口 53,962人(-49)／男26,407人(-31) 女27,555人(-18) ●世帯数 20,260戸(-1)